

事例研究報告
—就学前幼児による親の支援付き英語学習—

A Case Study of a Japanese Preschooler Learning English as
a Foreign Language with Parental Support

豊田ひろ子

Hiroko TOYODA

東京工科大学

Tokyo University of Technology

Abstract

This is a study of a Japanese preschooler, one boy, who learned English as a foreign language at home over three years with parental support. The study looks at how he learned English and how much English he acquired. The child used correspondence English learning materials produced by a Japanese publishing company. In the first year, he enjoyed listening, singing and dancing to English songs on DVDs and CDs. Even when he was not able to sing along, he was physically responding to English rhythms. Shorter words with Japanese *katakana* (semi-)equivalents were easier to learn. He was learning words with gestures in a way that was similar to how he was learning his mother tongue. In the middle year, a self-study tool called *Englee* helped expose him to more English input and further opportunities to use English in quizzes. In this period his vocabulary extended to longer words and conversational phrases, although he seemed to have some difficulty with grammar. In the final year, he was capable of expressing himself with ‘I’m...’, ‘I like...’, and ‘I can...’ sentences with gestures and feelings. He enjoyed playing English games with his family. He showed some awareness of English grammar rules. This may have arisen because he had been more thoroughly exposed to English through mimicking his mother’s English and receiving his mother’s explanations of the English that he was learning.

Keywords

EFL, Preschooler, Parental Support

1. はじめに

就学前の日本人の子どもは外国語としての英語をどのように習得するのだろうか。到達する英語力はどのようなものだろうか。本研究は、日本人就学前幼児1名(高月齢男児)が、3歳から6歳に成長するまでの3年間、家庭で英語学習用通信教材を使い、親の支援を得て英語学習をする様子と習得した英語を観察し考察した事例研究報告である。

2. 背景

2.1 調査のアプローチ

日本のように英語が生活言語として使われていない環境では、小学校に上がる前の子どもは、通常、英語教室や家庭で使う英語学習用通信教材などを利用して英語を学ばざるを得ない。英語に接触する機会が限られているだけに、教室で使う教材や家庭で受け取る教材が、子どもの英語学習の内容を決定する。また、教室で出会う先生の教え方や家庭で学びを助けてくれる親の支援の仕方が、子どもの英語学習体験に質的な影響を及ぼす。したがって、就学前の子どもたちの英語学習は、それぞれが個性的であり、まず事例としてとらえる必要がある。本研究では、このことを踏まえ、本事例において、子どもが使用した教材、親の支援、英語学習の様子、結果として習得した英語の間のつながりに注目した。観察の基となったビデオデータは、子どもの家庭で親が教材到着後1ヵ月以内に撮影したものである。学習活動の一部が撮影されたものであり、その一部から全体的な傾向を考察した。

2.2 教材の特徴

本事例の子どもが使用した教材は、㈱ベネッセコーポレーションが制作販売している英語学習用通信教材『こどもちゃれんじ English』であった。DVDには、ネイティブインストラクターとともに、トラの子キャラクターのしまじろう、カエルの忍者キャラクターのリビーが登場する。日英語バイリンガル教材で、日本語は、学習項目の英語の直訳ではなく、「一緒に言ってみよう！ せーの！」といった指示や、状況や英語構文(例：I like ~.)の簡単な説明などに使われていた。カリキュラムは、子どもの認知的発達および身体的発達に配慮して組まれている。1年目(3~4歳)が「ほっぷコース：身近な英語がわかるようになる」、2年目(4~5歳)が「すてっぷコース：ものの名前を理解して言えるようになる」、3年目(5~6歳)が「じゃんぷコース：表現を組み合わせて言いたいことが言えるようになる」という構成だった。2ヵ月に一度配送される教材は、マルチメディア教材で、3年間通して毎回DVDとワークブックが、また、2年目からは毎回ペン式電子学習機(名称：Englee)用シートが含まれていた。さらに、3年間通して、毎回追加教材として、CD、音声玩具(例：録音機能付きマイク)、紙・シート型付録(例：カード、すごろく、Touch & Step-on Sheet)、CD-ROM(3年目の後半に配送)など付録教材が1点から2点ほど送られていた。内容的には、DVDとワークブックが、その他の教材と連動していた。

3. 事例研究

3.1 教材の活用と親の支援

子どもは、3年間通して、DVD、ワークブックを中心にその他の音声玩具などをまんべんなく活用していた。支援者は母親で、特にワークブックへの取り組みを助けていた。母親は、ワークブックの絵を指差して英語を言い、子どもにまねさせた。子どもは母親の英語が聞こえると、反射的にまねるようになっていった。最後のほめ言葉「Good job!」までまねることもあった。また、学習開始当初から単語ではなく文をまねさせた。最初の号から、子どもが「I'm three years old.」は「ながいから。」とためらうと、区切って聞かせてまねさせた。さらに、ワークブックに書いてある説明文を単純に読み上げるのではなく、絵を指差しながら

自分の言葉で英語の意味の説明をした。ブックに書かれていなかったが、文法の説明をすることがあった(例：名詞の単数形と複数形の違い)。また、子どもの自立的学習を促した。母親の助けで正解すると、「もう一回やろう。ママが手伝っちゃったから。」と言って、ひとりで挑戦させた。動物の歌を「つかれたからやらない。」と言う子どもに、「やらないとビデオの先生にしかられちゃうよ。」と踊らせることもあった。母親は、厳しく指導する一方で、親子で遊べる教材があると、妹も一緒に3人で歌い、踊り、ゲームを楽しみ、笑い声を上げた。上手にできると、子どもを抱きしめた。また、DVDを見ていて「これおかしいね。」と大笑いして率直に反応を見せることもあった。父親は、学習支援はしなかったが、子どもの英語をほめていた。子どもは、最後に修了証を母親にもらい喜んでいて、その顔は自信にあふれていた。修了証に綴られた母親のコメントは「Good Boy！」だった。

3.3 英語学習の様子

1年目(3~4歳)は、主に英語の歌をまねて踊るのを楽しんでいた。英語のシャワーを浴びて、英語に親しみ、英語音を体感していたと考えられる。家の中でDVDを見てまねるだけでなく、ドライブで出掛ける車内でもCDをかけて音を聞いて歌っていた。手や体を動かす歌、‘Open, Shut Them’や‘Head, Shoulders, Knees and Toes’を楽しんだ。‘Open, Shut Them’は、最初手の開閉が歌詞とは逆だった(自分では正しいと信じていた)が、手はリズムカルに動いており、そのうちに歌詞通りに動くようになった。ABCの歌は最後の方が歌えなくなると、あごでうんうんとリズムを取っていた。DVDで王子様と王女様が踊る演出になっていた‘Lavender’s Blue’は、妹の頼みを聞いて、一緒にワルツを踊ってあげていた。2年目(4~5歳)は、音声玩具 Englee を使った自立的な学習が始まり、真剣に取り組んだ。Englee シートの絵をペンでタッチして、より多くの英語のシャワーを浴びることになった。また、覚えた英語でシートのクイズ問題に挑戦し、正解して機械にほめられると「できた！」とうれしそうだった。ワークブックへの取り組みは、母親が学習開始当初から支援していた。単語は一度では覚えられず、母親に繰り返し教わった。しかし、2年目の最後の頃には、「ママ、いわないで。さいしょから。」と言って、ワークブックの単語迷路を、自分で英語を言いながら進んでゆく積極的な態度を見せた。3年目(5~6歳)は、ワークブックと Englee にさらに自発的に取り組み、英語に関して言語的な気づきを抱くようになった。「おもちゃをもっている」「人間」は英語で何と言うのかと質問したり、「Beetleってなに?」「Pictureってなに?」と機械から聞こえる英語を聞き取り、日本語の意味を聞くようになった。

3.3 英語の理解と産出の特徴

英語の語彙に対する反応には、特に学習開始頃に、母語習得と同様、意味を体で表す仕草があった。ワークブックで誕生日のケーキの絵にろうそくのシールを貼り「Happy Birthday!」と言って吹き消したり、DVDで「飛行機、Airplane」と聞いて「びゅーん」と言って手を広げて飛んで行ったりした。また、DVDで映像を見ると、「うさぎ!、もぐら!、ねこ!」とまず日本語で反応したり、「これは何?」と聞かれてわからないと、英語っぽい発音で「キイロ」のように日本語で答えることがあった。さらに、カタカナ語で既に知っており、音が英語に似ている語(例:「ポテト」-「ポテイトオ」)の方が、そうでない語(例:「にんじ

ん」「キャロット」)よりも理解しやすく産出しやすい様子だった。数字も、日本語で数えられる状態になっていると、英語を覚えやすいようだった。1年目(3~4歳)は、長めの英語を機械音で聞き取りまねるのは少し難しそうだった。例えば、pumpkinを「パーブチャン」、fried chickenを「フライドキッチン」と、自分が知っていて言いやすいパターン(「○○ちゃん」「キッチン」)に当てはめて発音していた。2~3年目(4~6歳)になると、機械音でも、英語自体を聞き取る耳ができ、聞いたままの英語を繰り返して、その意味をたずねられるようになった。英語の語彙や文の聞き取りや理解は、2~3年目(4~6歳)に飛躍的に進んだ。Engleeシートに取り組むときは、問題に集中し無口になったが、「数字」や「色」「形」から身近な「食べ物」「乗り物」「生き物」「家族」「建物」「文具」「職業」に関する語彙クイズに順調に答え、正解していた。

産出面では、3年間通して、新しい語彙や会話表現を習うときは、まず母親の肉声をまね、覚えると次第に自分で発声するようになっていった。DVDを見ているときよりも、母親とワークブックに取り組んでいるときの方が、英語の産出は多かった。発音は、最初は英語っぽく聞こえるものの全体的に緩めだったが、次第に英語特有の子音(例：[ɸ][th])も日本語訛りから英語らしくはつきりと産出できるようになっていった。1年目(3~4歳)は、DVDで歌などを聞いていると、不完全でも一緒に踊って歌っていたが、2年目(4~5歳)は、歌は、「はやすぎてうたえない。」とつぶやくことがあった。その一方で、英語の短文は、「君も一緒に言ってみよう！ せーの！」と掛け声がかかると発声できる(例：「I can do it.」)ようになった。3年目は、クイズにも短文(例：「I want a donut.」)で答え、日常的な会話表現(例：「Look!」「Where?」「Over there.」/「Watch out!」「Thank you.」)をまねられるようになった。さらに、3年目(5~6歳)の後半では、量的には多くはないが、覚えた英語で自分のことを表現する文を発声することができた。DVDで「What do you like?」と質問され、次の質問「What can you do?」になっても、考え続け、「I like, I like, I like strawberry.」と自分の答えを産出した。ワークブックに取り組んでいるとき、気持ちを込め、仕草を付けて英語を発声することができた。例えば、母親と「Thank you.」「You're welcome.」の会話を、感情を込めたイントネーションでやりとりした。「どういう気持ち？」と聞かれ、両手を合わせて頬に当て「I'm sleepy.」と眠そうな声で言った。また、ワークブックの絵を見て、複数のキャラクターの立場で、それぞれ何が欲しいのかを作文し発声した。

さらに、興味深いことに、特に3年目(5~6歳)に、英語という言葉に対する気づきを示すさまざまな反応があった。例えば、DVDのアルファベットのコーナーで「え、アポーってAなの？ エイポー？」(母親「そうよ。」)のように文字の名前の音と実際の音が異なるというフォニックス的な発見、「ズはつかないの？」(母親「1個だからつかない」)という複数形-sの気づき、「かさのときはなんでanになるの？」(母親、説明に苦勞する)のようにaとanの冠詞の使い分けの発見があった。また、「Let's play soccer.」「Let's play Enlgee.」から推測して、「本を読もう！」と言うつもりで「Let's play book!」と言い、母親に「Bookはplayしないな。Let's read a book.だね。」と教えてもらう場面があった。さらに、「Curry and rice. カレーライスにした。」のように、最後に日本語を加える形で、英語を習得しており、英語、日本語ともに、ごく自然に言うことができていた。また日本語の中に英語が交ざることなく、日本語の発達にまったく支障はなかった。

4. 考察

本事例によると、就学前の3年間、家庭で通信教材を使い英語を学習すると、英語の理解面、産出面において、英語に慣れ、英語で身近なものを理解し、英語を使って簡単な自己表現ができる程度の英語習得が可能であることがわかる。注目すべき条件として、教材、親の支援、子どもの英語学習と英語について考察した。

4.1 教材

本事例で使用された教材は、子どもの認知発達および身体発達に合ったものであり、内容的には、子どもにとって身近なもの、体験や関心に合ったものだったので効果的だったと考えられる。カリキュラム的には、最初に、歌やチャンツで英語のシャワーを与え、英語の音を体感させて慣れさせ、次第に音声玩具教材を導入し自立的な学習を促し、最後に覚えた英語を使って自己表現をするというタスクに取り組みせる流れもよかった。多様なメディアで教材が提供されていたので、それぞれのメディアが使用されるさまざまな場面で英語を体験することができた。子どもは、DVDやCDで英語を聞き、Engleeで理解を深め英語クイズを解き、マイク教材で自分の声を吹き込んで作品にしたり、CD-ROMでコンピュータを操作し、すごろくやBINGOゲームで家族と英語を使って遊んだ。このような一連の活動は、日本の日常生活の中で英語を使う機会のない子どもたちにとっては、英語の貴重な運用体験だったと考えられる。つけ加えると、聞いて覚えた英語を知識として蓄え続けるのではなく、実際に使ってみて楽しさを味わうことで、子どもは英語をポジティブなものとしてとらえ、自信を持ち、そしてそのことが英語学習のよい動機付けとなったのではないかと考えられる。

4.2 親の支援

本事例の子どもの母親は英語の先生ではなかったが、熱心に学習を支援していた。印象的だったのは、まず、子どもに自分の肉声で英語を聞かせ、それをまねさせていたことである。まねさせた英語は単語に限らず、会話表現や文に及んでいた。また、日本語で意味を説明して、ワークブックの絵を指差しながら英語を聞かせて、まねをさせ、最後は、ひとりで言うように促すという一連の流れがあった。母親の英語の発音は日本語訛りがなかったわけではない。しかし、子どもの英語には訛りがなかった。その主な理由としては、子どもにDVDを見せ、Engleeで英語のシャワーを浴びさせるなど、母親が音声教材を十分に活用していたことが挙げられる。母親は、ワークブックに取り組むとき、説明文を読み上げるだけでなく、子どもが理解しやすいように、内容を噛み砕いて話していた。英語の音をまる覚えさせるのではなく、意味を理解させた上で、絵を指差し、英語をまねさせるという工夫によって、英語の「音—意味—イメージ」の間の結びつきが子どもの頭の中ででき、英語を覚えやすくさせたのではないだろうか。ただ聞かせているよりは、まねをさせる。意味も教えて、まねをさせる。このような負荷をかけることで、子どもは英語を覚え、覚えた英語で遊べればうれしくなって、また覚えるという、学習のポジティブな循環ができてくる。ワークブックというメディア・ツールは、音声を伴わないアナログ教材だが、子どものペースでゆくりと取り組めるので、親が意味を説明するには最適と言える。一日に何ページもこなすより

も、子どもの関心に合わせて、話を広げて楽しみながら、英語を覚え、ゆっくりと進めてゆく方が効果はあるようだ。母親には、厳しさがある一方で、子どもをほめる優しさや、ユーモアを分かち合い、ゲームを楽しむ明るさもあった。子どもを教材に預けるのではなく、子どもと一緒に教材を楽しむという姿勢が大切であるように思える。

4.3 子どもの英語学習と英語

幼いほど、子どもはアナログ的な学習を行い、母語と同様に有意義なインプットを必要とし、体を動かして外国語を習う様子が観察された。まず、英語の音のシャワーを浴び、慣れ親しむ体験は必要不可欠である。本事例の子どもは、「飛行機、Airplane」と聞いて、手を広げ、「びゅーん」と飛んで行ったが、絵を見たり、その音を聞いたりすると、体で表現しようとする。完璧にできなくても、体を動かし、踊りながら、英語の歌を歌うという体験は効果がある。最初に肝心なのは、英語のリズムを体感し、楽しいと思えることだろう。次第に、英語の音がわかってくると、アウトプットし始める。英語がわからなければ、それに相当する日本語を英語っぽく発音してみたりする。最初は肉声の方が聞き取りやすいようだが、次第に機械音を聞き取れるようになる。

本事例の子どもは、最終段階で、教材で扱われた英単語と会話表現をほぼ完全に理解し、簡単な自己紹介文を産出することができた。教材ではまとまった英語の文章の理解や産出は特に扱われてはおらず、撮影されたビデオデータからは、それらに関する事実を見つけることはできなかった。もともと、教材では文法的な要素が学習項目として扱われていないが、子どもと親が産出する英文には時折文法的な間違い(例：冠詞の欠落や名詞の複数形 -s の不在)があった。注目すべきなのは、最後の年に、子どもが、英語という言葉に関して、さまざまな気づきを持ったことだろう。子どもの母親が、英語の意味を説明し、音をまねさせていたので、英語を深く分析する力が養われ、そのような気づきが生じたと考えられる。彼が気づいたフォニックス、冠詞、複数形 -s の音といった言語的特徴は、英語という言葉の中に存在する、まさに異文化的要素であると言える。例えば、冠詞は単なる文法項目ではなく、ひとつのものとたくさんのを分けてとらえるという世界観と結びついていて考えられる。外国文化を理解するのにもさることながら、英語の中に存在するこのような見方について知るのも大事ではないだろうか。

5. おわりに

英語が生活言語でない就学前の日本人の子どもでも、親の支援を得て、家庭で英語学習用通信教材を3年間継続して使うことによって、英語を習得できることがわかった。教材が子どもの認知発達と知的好奇心に合っていること、親が意味を伝える支援をすること、子ども自身が音声をたっぷり聞いて英語という言葉に慣れ親しむことは、その前提条件となる。到達点としては、ナチュラルな英語の発音と、身近な英語の理解、さらには対面的な状況で、自分の好みなどについて質問されたとき、表情をつけて答えを返し、簡単な言葉のやりとりができることが観察された。産出された英語には文法的な誤りがあったが、英語を聞いていて文法的な特徴に気づくこともできた。微笑ましかったのは、家族で英語の歌を歌ったり、ゲームなどをして楽しんでいる姿だった。英語という長い旅の中で、このような楽しい

思い出は、子どもを支える大きな力となるだろうと思った。日常生活の中で英語に触れることのない日本人の子どもや、支援する親にとって、教材が提供する英語は唯一のインプットであり、そのインパクトは計り知れない。子どもたちが楽しく英語学習し、着実に英語力を伸ばしてゆけるように、今後の教材開発研究と制作に尚一層期待したい。

付録

〈就学前幼児(高月齢男児)の3年間の英語学習の記録〉

付録 就学前幼児(高年齢男児)の3年間の英語学習の記録

		英語学習				英語	
教材	支援者	主に行っていること	楽しんでいること	難しさを感じていること	その他	理解面	産出面
ほっぶ 3月号	母親 (妹も参加)	DVDとWB。歌「Open, Shut Them, 'Hot Potatoes, 'The ABC Song」と踊り。車中でもCDをかけて歌っている。	歌と踊り。「Open, Shut Them」の手の開閉が最初逆だったが、自分が正しいと言い張る。	「I'm three years old」(母親のまね)「なかいから。」	ABCの歌。最後の方は歌えないが、あごでうんうんとリズムを取る。	WB。「3は英語で？」と聞かれ「わかんない。」(教えてもらおう。)	「I'm A, I'm fine.」(母親のまね) / 「チュートル」(カメの発音。母親の発音は「タートル」)
ほっぶ 5月号	母親 (妹も参加)	DVDとWB。歌「Shoulders, Knees, and Toes, 'A Sailor Went to Sea, 'Cheerleading Song」と踊り。	DVDとWB。歌「Head, Shoulders, Knees, and Toes, 'A Sailor Went to Sea, 'Cheerleading Song」と踊り。	ポンポン。DVDに合わせて「Go!」とジャンプし「Yeay!」と言う。	船乗りの歌で海に飛び込むまね。ケーキのろうそくを吹き消すまね。	WB。「1と2は英語で？」と聞かれ「わかんない。」(教えてもらおう。)	数字1~10を言える。「お魚は英語で？」と聞かれ「Fish」と言う。
ほっぶ 7月号	母親 (妹も参加)	DVDとWB。文や単語の発声(母親のまね)。母親の歌や文の意味の説明を聞く。歌の内容について「なんで？」と質問する。	DVDとWB。文や単語の発声(母親のまね)。母親の歌や文の意味の説明を聞く。歌の内容について「なんで？」と質問する。	「Three Little Monkeys」を何度も見て歌わないがソファの上を跳ねる。	「飛行機、Airplane」と聞いてやるぞ、ひやーん!」と動く。/ 動物の歌。「つかれたからやらない」と言うが「やらないとビデオの先生にしろかれちゃだよ。」と言われ、する。	音声玩具。「チキンはどれ? わんわん? チキンってなに?」(鳴き声で教えてもらおう。)	数字1~10を言える。「Yes, I like elephant」をまねるように言われ「Yes, I like I like elephant.」 / 「カンガルー、えれふあんとライオン、スネイク。」(母親のまね)
ほっぶ 9月号	母親 (妹も参加)	DVDとWB。文と単語の発声(母親のまね)。	DVDとWB。文と単語の発声(母親のまね)。	「四角は?」と聞かれ「ブルール。」。三角は?」「サークル。」(教えてもらおう。)	DVDを見て、ラベンタターの歌を妹に、せがまれ、一緒に踊る。	WB。「何色?」と聞かれ「きいろ。」	黄色を指さされて「英語で?」と聞かれ「キイロ。」と英語っぽく言う。「ロック、ペイパー、ソーザ。」 / 「What's this? Strawberry, Orange.」(母親のまね)
ほっぶ 11月号	母親 (妹も参加)	DVDとWB。文や単語の発声(母親のまね)。母親の歌や文の意味の説明を聞く。	DVDとWB。文や単語の発声(母親のまね)。母親の歌や文の意味の説明を聞く。	親子でDVDのクリスマスソングやグループで踊る歌を歌って踊る。「上手にできたからだっただけあげる。」と母親。	日本語で絵のボールを数える。/ 妹には「はい、どうぞ。」と言う。「Cut」と言いながら切る動作をする。	DVD。「Curry and rice」がカレールイスであることを知る。/ 緑は?」と聞かれ、「Green.」。「紫は?」「Purple.」と言う。	基本色を言える。/ Potatoを「ポテイトオでしょ。」と確認。/ 玉ねぎを「オニオン。」と言う。/ DVDをまねて「I want a ball. Ball, please.」 / 「Here you are.」と言う。/ 「I want a new suit.」(母親のまね) / 「I'm hungry.」(母親のまね)
ほっぶ 1月号	母親 (妹も参加)	DVDとWB。歌と踊り。母親の歌や文の意味の説明を聞く。あいさつ表現の発声(母親のまね)。	DVDとWB。歌と踊り。母親の歌や文の意味の説明を聞く。あいさつ表現の発声(母親のまね)。	魚取りセットの魚の数字を機械で聞いて取ったり並べたりする。お風呂場でも遊ぶ。	DVDで動物を見て日本語で「うさぎ! もぐら! ねこ!」と言う。英語を聞いてまねる。/ 「バスはえいごでなんているの?」	WB。「お誕生日のどきは?」と聞かれ「Happy Birthday.」。「クリスマスは?」に「Merry Christmas.」と言う。/ 家が「House.」だと知っている。	数字1~10を言える。/ DVDと一緒に母を言う。

* WB = ワークブック

付録(続き) 就学前幼児(高月齢男児)の3年間の英語学習の記録

		英語学習				英語	
教材	支援者	主に行っていること	楽しんでいること	難しさを感じていること	その他	理解面	産出面
すてっぶ 3月号	母親 (妹も参加)	DVDとWB。文の発声(母親のまね)。単語の発声(DVDのまね)。母親の説明を聞き、英語の指示に合わせて体を動かす。	Engine。ペンでシートの絵を押して対応する音を集中して聞いている。	Cowを「コウ」と発音。	「1個はビッツ、いっぱいではビッツ。シープは1個のの」上の説明を静かに聞いている。	DVDを見て「Clap Stamp」の動きに合わせて踊る。	DVDで絵を見て「Rabbit」「Pig」/「Chocolate」(DVDのまね)「Im B」/「Good morning. Good night」(母親のまね)
すてっぶ 5月号	母親 (妹も参加)	DVDとWB。文と単語の発声(母親のまね)。単語の発声(大十機械音のまね)。母親は本人が自力でEntieの問題に自ら取り組むように促している。	Engine。数字をタッチ。「よく聞いて。」と母親に言われ、機械音に覆いかぶさるようになり、「何度かのトライで成功。できた！できた！」/「マイクで自分のABCの歌を録音再生。	「Im full」を思い出せない。「Im hungry. あゆむ？」と聞く。「Are you sleepy?」と聞く。「あゆむ、sleepy」と言う。/Engineでヘリコプターの音を聞き取れる。母親に助けをもらう。	Engineで「(聞こえる)英語を言わなきゃダメ。」と母親に注意される。「おなかすいたは？」「かぼちゃは？」「ポポタムス。」(母親は「ポ。」)	Engineの機械音 Truck が聞ける。「おなかすいたは？」「かぼちゃは？」「ポポタムス。」(母親は「ポ。」)	「Im four years old」「Im full」「Im sleepy」(母親のまね)/数字1〜10、ジャポン玉を5まで英語で数える。
すてっぶ 7月号	母親 (妹も参加)	DVDとWB。単語の発声(母親のまね)。単語の発声(大十機械音のまね)。母親は本人が自力でEntieの問題に自ら取り組むように促している。	Engineをプレーして、「Seven Steps」の歌を聞き取る。	「Do you like dogs? Yes, I do. No, I dont.」と聞き「Do」と口を尖らせて言う。	Missing Game(カード当て)。「上向いてずいぶんいない母親」に注意されるが「Butterfly」と正解。	WB。キュウリは「キューカンパー」と教わる。「パイポートルって？」「アントって？」「教えてもらおう」「オクトパスって？」「親のまね(いさつき教えたしやないタクさん。」と母親)	DVDで「Five」「Eight」と数を数える。WBで「キャベツ(Cabbage)」/「Carrot」「Corn」「Potato」(自力)/「Spider, Snail, Butterfly」(母親のまね)
すてっぶ 9月号	母親 (妹も参加)	DVDとWB。文と単語の発声(大十母親のまね)。母親は本人が自力でEntieの問題に自ら取り組めるように促している。	DVDのインタラクティブ機能。「Aはポート。」とリモコン操作する。	カルタ取りで Shrimp と Crab を間違えた。	DVDのやWBの英語を母親がまねると、それをまねて次々と言う。ほめ言葉「Good job!」までまねる。「もEngineの文具シート。もう一回やらう。ママ手伝っちゃったから。」と母親。	DVDの体操のコーナーで「Turn, stop, skip.」の指示通り動く(母親が指示を肉声で繰り返して言う。「Stopしてない！」の注意も。)	「Square」「Triangle」(母親のまね)「Robot, Doll」「Sandbox, Jump rope, Jungle gym, Seesaw」(母親のまね)「Jungle gym」は一緒に言う。(WBの英語のペンの語を次々と読んでゆく(母親のまね))
すてっぶ 11月号	母親 (妹も参加)	DVDとWB。単語の発声(大十母親のまね)。	DVD。英語の指示「Touch/Shake your shoulders/hips.」に合わせて踊る。母親が肉声で繰り返し聞かせる。/「すごろく」「月の色は？」の質問に「Yellow」と答える。トナーのプレゼントカードをもたって遊ぶ。	母親が「もう一回。」と言って遊具の単語をまねさせる。絵を指差して自分の英語を聞かせる。	母親が「もう一回。」と言って遊具の単語をまねさせる。絵を指差して自分の英語を聞かせる。	DVD。「I have a jump rope.」(「Robot, Doll」「Sandbox, Jump rope, Jungle gym, Seesaw」(母親のまね)「Jungle gym」は一緒に言う。(WBの英語のペンの語を次々と読んでゆく(母親のまね))	DVD。「I have a jump rope.」(「Robot, Doll」「Sandbox, Jump rope, Jungle gym, Seesaw」(母親のまね)「Jungle gym」は一緒に言う。(WBの英語のペンの語を次々と読んでゆく(母親のまね))
すてっぶ 1月号	母親 (妹も参加)	DVDとWB。文と単語の発声(自力)。母親と「Throw」「Catch」と言いながらキャッチボール。	Engine。次々に正解にタッチ。WB。「ママいわないで。さいしょから。Dolls, blocks」「Doll, puzzle, cards, blocks, cards.」と迷路を遊ぶ。	機械音で Shirt をタッチして音を聞くが、シューズと聞き違える。機械音の助けで「シャーツ」と聞き取る。	「なんだっけ、ちやいる。White?」「ブラウンと教わる。」「It's a white」(aが不要。母親が注意。)	DVD。「I can do it.」と聞いて「Do it」(母親のまね)/浴室でシートを見て「It's yellow. Red」と言う。	WB。乗り物の名前を言う。

* WB = ワークブック

付録(続き) 就学前幼児(高月齢男児)の3年間の英語学習の記録

		英語学習				英語	
教材	支援者	主に行っていること	楽しんでいること	難しさを感じていること	その他	理解面	産出面
じゃんぶ 3月号	DVD, WB, Englee, 英語玩具 (文字学習)	母親 (妹も参加)	DVDとWB。文や単語の発声(まね+自力)。ABCの歌を指差し。Clap。母親が指差した色を言う。母親の説明を聞く。	WBのカニをさきで切り取る。父親がほめる。妹に頼まれ手をささむ。母親。始め「Orab.」と言って聞かせている。	Hを思い出せない。母親に「HiのHだよ」とヒントをもらい、ABCの歌を歌って思い出して正解する。	WB。「エントってなに?」「(教わる。)/「(トトルって?)」「(教わる。)/Englee。家族の名前をタッチする。	DVDのクイズに「I want a donut.」と言う。/「I want a donut, please./」「(教わる。)/「Here you are. Thank you./」のやりとり。/「I want an umbrella./」(母親のまね)/「It'sを使って文が言える。
じゃんぶ 5月号	DVD, WB, Englee, Touch & Step-on シート	母親 (妹も参加)	DVDとWB。文や単語の発声(まね+自力)。母親の説明を聞く。DVDで歌と一緒に歌う。	T. & S. シート。母親が機械音の指令を大声で言う。父親が「Yes」に答える。	英語で16の次に18と言ったし、母親に指摘され「16, 17, 18」と言い直す。	「スキーマってなに?」とおおきな声で「スキーマってなに?」と質問。次々に正解にタッチ。	WBで紙のしまじろうを「I can jump. I can jump. I can jump. I can jump.」とジャンプさせる。
じゃんぶ 7月号	DVD, WB, Englee, CD-ROM	母親 (妹も参加)	DVDとWB。小声でBINGOの歌、ABCの歌を歌う。文や単語の発声(母親や機械音のまね)。	DVDのインタラクティブ機能。歌下を選ぶ。文「うーいっかいや」。	Englee, Ambulance を最初間違える。	「マウス(口)ってなに?」「(教わる。)/「虫と食べ物。クイズに正解する。/「ペンギンってなに?」「(教わる。)/「マウス(口)ってなに?」。	DVDと一緒に「Look! Where? Over there!」と言う。/「I, monkey./」「I like ladybug./」(母親のまね)/「What do you like? I like tuna./」(母親のまね)/「I like potato. Train./」「Thank you./」(CD-ROMのまね)
じゃんぶ 9月号	DVD, WB, Englee, 英語玩具 (マイク)	母親 (妹も参加)	DVDとWB。文と単語の発声(まね+自力)。母親の説明を聞く。自分の言いたい英文を母親に作ってもらう。	マイクでBINGOの歌を録音再生し、英語表現「Thank you, You're welcome.」を練習している。	「驚は?」と聞かれわからないうちに「I get」と答える。母親が「おもしろい」と答える。母親が「おもしろい」と答える。母親が「おもしろい」と答える。母親が「おもしろい」と答える。	「ローズってバラ?」と推測する。/「Toesを母親がトウエスと言うのを聞きコマテアの仕草をする。母親「それらがう。」と笑う。	「Are you all right?」「母親のまね)」「あなたはhead)」「母親のまね)
じゃんぶ 11月号	DVD, WB, Englee, 面白い物すぐく、 目標シート	母親 (妹も参加)	DVDとWB。文と単語の発声(まね+自力)。母親の説明を聞く。自分の言いたい英文を母親に作ってもらう。	Engleeで動物の鳴き声を一一致させる。Elioの曲を花見の音で聞く。曲のシートを順番に音で覚えていく。母親が「おもしろい」と答える。	「驚は?」と聞かれわからないうちに「I get」と答える。母親が「おもしろい」と答える。母親が「おもしろい」と答える。母親が「おもしろい」と答える。	「妹がアプ(ラ)ってなに?」と推測する。/「Toesを母親がトウエスと言うのを聞きコマテアの仕草をする。母親「それらがう。」と笑う。	「I want a donut, please./」(DVDのまね)/「I'm hungry./」(母親のまね)/「Oh, thank you./」(DVDのまね)/「母親が気持の表裏のクイズをする。/「I'm happy. I'm hungry. I'm sleepy. I'm sad./」(「I want juice. I want a fork./」(母親のまね)/「I want Yogurt./」(Eighteen./)「This one please./」
じゃんぶ 1月号	DVD, WB, Englee, CD-ROM 目標シート	母親 (妹も参加)	DVDとWB。文と単語の発声(まね+自力)。母親の説明を聞く(例:「Office worker はなんかいな人。会社員。」)。目標は「気持ち」。	Englee。音楽のシートで曲を楽しむ。その他恐竜、ダチョウの名前(オーストリッチ)など日本語で会話ができる。	「Soccer ball」と答えたが、「I have a soccer ball」と文の形で言う。	「Yogurt./」「Curry and rice./」(ライオン)「What can you do?」「I can sleep./」と3回言う。/「I have a book bag./」(母親のまね)/「I have flowers. What do you have?」「(母親のまね)/「I can run. I can swim./」	DVDの「せーの」の掛け声で「I like English!」と言う。/「What do you like?」「I like strawberry./」(母親のまね)/「I like strawberry./」(母親のまね)/「I like strawberry./」(母親のまね)/「I like strawberry./」(母親のまね)
じゃんぶ 3月号	DVD, WB, Englee, 目標シート、 修了証	母親 (妹も参加)	DVDとWB。文と単語の発声(まね+自力)。母親の説明を聞く(例:「Office worker はなんかいな人。会社員。」)。目標は「気持ち」。	「自分の言いたいことを言う(例:「I want ball)」「母親が「I want soccer ball?」と支援。「うん。」)「修了証をもらい、修了シートを完成させて笑顔。修了証に母親が書いたコメントは「Good Boy.」。	DVDでヒントを「I have a soccer ball」と答えたが、「I have a soccer ball」と文の形で言う。	「会社で働く人ば?」と聞かれ「I can dance./」「I can run. I can dance./」「I can run. I can dance./」(母親のまね)/「I can dance./」(母親のまね)/「I can dance./」(母親のまね)	DVDの「せーの」の掛け声で「I like English!」と言う。/「What do you like?」「I like strawberry./」(母親のまね)/「I like strawberry./」(母親のまね)/「I like strawberry./」(母親のまね)

3年目

* WB = ワークブック